

## 「みんなで支えあう福祉のまちづくり研修会」を開催しました。

—市内の校区社協・社協支所を中心に自治会長、民生委員・児童委員  
306人が参加されました。—

佐賀市社会福祉協議会では、「住み慣れた地域にいつまでも住み続けられるよう」身近な地域での助け合い・支えあいの仕組みづくりを進めています。

さる、9月29日、地域における支えあい活動の大切さと地域の特性を活かした取り組みを紹介し「助け合い・支えあい」の在り方について考える研修会を開催しました。

佐賀市社会福祉協議会石丸会長より「地域が希薄化する中、地域の課題解決に向け「人ごと」ではなく、「我が事」として関心を持ち、地域での助け合い・支えあい活動ができる地域づくりを進めていきます。」とあいさつ。

次に、同志社大学大学院社会学研究科 教授の上野谷加代子先生に「共に支えあい育もう地域力」～たすけ上手・たすけられ上手の地域づくり～ をテーマに基調講演をいただきました。

その後、3名のパネリストからそれぞれの取り組み事例を報告いただき、コーディネーターの上野谷先生を中心にパネリスト、更にはフロアと意見交換を行いこれからの小地域活動の取り組みについて大変参考になりました。

3名のパネリストからは、次のような取り組みについて、それぞれ実践事例報告をいただきました。

- ① 高木瀬校区 城北県営自治会長 浦田弘氏により、医療系学生と協働して「おはようボタン」を考案し、ボタンを押すことにより、高齢者の安否確認を行っている取り組み。
- ② 日新校区 六座町 元民生委員・児童委員 牟田口朝子氏により、意識調査からみえてきた生活課題解決に向け、地域住民の参加・参画を得ながら支えあい活動に向けた取り組み。
- ③ 西与賀校区 城西団地 すずめのカフェ代表 千綿順子氏により、毎月2回、誰もが気軽に立ち寄れる場所として、「すずめのカフェ」をオープンさせ、地域課題解決に向き合う取り組み。



講師 同志社大学大学院 社会学研究科 上野谷加代子教授



会場は満員でした。



登壇者 左から 浦田氏・牟田口氏・千綿氏